

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年11月30日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.69】

松崎氏の息子はJR総連関連会社「さつき企画」の社長に就任！

JR総連・東労組より破格の厚遇を受けてきた東労組元会長の松崎明氏だが、息子のA氏も、松崎氏が唯一の株主を務めるJR総連関連会社「さつき企画」の社長に就任するなどしていた。このことについて、「週刊現代裁判」における松崎氏の証言内容(2009年1月26日)を検証する。まず「さつき企画」についての松崎氏の証言を紹介したい。

(被告代理人)さつき企画というのは、いつ頃できた会社ですか。(松崎)... (代理人)大体でいいですよ。(代理人)そうですね、15、6年前じゃないですか。(松崎)目的はどういうことをする会社ということなんですか。(代理人)さつき企画は、取りあえずは、多分ひどい時代が来るであろうからOBの就職先を確保しようということが1つ、それから私は余り薬害ということで薬は嫌いですから、ウコンですとかプロポリスですとか、そういう健康に必要なものの販売を安く確実に安全なものという意味がありました。(代理人)あなたも、最初から設立には関与されていたんですか。(松崎)はい、そうです。(代理人)当初はどんな仕事をしてましたか、さつき企画会社の業務としては。(松崎)... (代理人)最初から健康食品的なことをやっていたんですか。(松崎)そうです。私が始めたときはね、その前にさつき企画がありますから。(代理人)最初は保険代行のようなことが主だったんですか。(松崎)そうですね。ほとんど休眠会社だったですからね。(代理人)それから組合関係の組合員対象のツアーを企画するといったことも始めましたね。(松崎)始めました。(代理人)2000年あるいは1999年頃でも結構ですが、この当時のさつき企画の株主の構成というのはどうなっていましたか。(松崎)私1人だと思います。(代理人)個人会社ですか。(松崎)そうだと思います。(代理人)個人会社というといろんな意味がありますが、まず株式を保有しているのはあなたお一人なんですね。(松崎)はい。(代理人)ただ、あなたの個人的な目的のためにやっている会社ではなくて、組合員や何かの保養の場も提供するというようなことも大きな目的の1つにはなっていたんですね。(松崎)はい、そうです。(代理人)健康食品、ウコンやプロポリスは、これは実際にはどうやって注文を受けたりしてたんですか。(松崎)これは、さつき企画が各地方を回り、それぞれの大会、中央委員会その他現場まで赴いて宣伝をし、多分組合機関紙にも宣伝をしてもらったと思います。(代理人)大会なんかには出掛けていくでしょうし、それから地本の役員にさつき企画の担当をお願いして、地本所属の組合員の注文を取りまとめて本社のほうに連絡をする、発注するということもしてましたね。(松崎)はい、販売促進をお願いすることはありました。(中略)(代理人)ところで、松崎さんのお子さんにAさんという方がいらっしゃるんですよね。(松崎)はい。(代理人)この方はJR東労組とかJR総連の組合員でしょうか。(松崎)関係ありません。(代理人)Aさんは、2000年3月にさつき企画の取締役に就任して、翌2001年6月に同社の代表取締役に就任されましたか。(松崎)そう思います。

労働運動家が息子に組織を継がせるなど聞いたことがない！

「さつき企画」のウコンやプロポリスを購入したことのあるJR総連・東労組の組合員も相当いることだろう。西岡研介著「マングローブ」は、「政治家や資産家が、親の遺産や社会的な立場を『世襲』することは、まああることだ。が、松崎のような『労働運動家』が息子に組織を継がせるなど、聞いたことがない」と厳しく指弾している(p.100)。